

「論文」

英語における live a/an Adj life と lead a/an Adj life に 見られる意味的違いについて*

金澤 俊吾

Abstract

In English, *live a/an Adj life* (LIVE), classified as one of the instances of cognate object constructions, is similar to *lead a/an Adj life* (LEAD). In fact, adjectives such as *normal* and *quiet* can occur in both phrases. However, in the previous studies, the semantic properties of these phrases have not been investigated in detail. In the present study, the examples of both LIVE and LEAD are collected from the Corpus of Historical American English (COHA). To identify the date of the first occurrence of instances of each phrase, we use *the Oxford English Dictionary Online (OED Online)* and Google Books: American English, as well as COHA, classifying the instances into six semantic categories. From the results of the present research, the formation processes of each phrase are explained on the basis of ‘amalgamate’ proposed by Goldberg (1995). We claim that the formation process of LIVE should be different from that of LEAD with respect to the argument structure of each verb phrase. LIVE describes the situation where people pass their life. This phrase is characterized by an adjective, in contrast to their daily life. LEAD, on the other hand, represents the situation where people experience their life. This phrase is defined by an adjective, related to other states or their daily life.

1. はじめに

英語における動詞句 *live a/an Adj life* (以下, LIVE) から構成される同族目的語構文と, 動詞句 *lead a/an Adj life* (以下, LEAD) は, ほぼ同義として扱われている。LIVE と LEAD は, いずれも目的語に修飾句を伴い, 人生や生活の在り方を表す¹。例えば, 形容詞 *quiet* は, いずれの動詞句にも生起できる²。

- (1) a. Earl has to *live a quiet life*, ... (COHA, 1956, FIC)
 b. I tried to *lead a quiet life* ... (COHA, 1956, FIC)

実際のところ、LIVE、LEAD それぞれに関わる動詞の辞書上の定義を確認しても、違いがほとんど見られない。

- (2) i. live: to have a particular type of life, or live in a particular way
 (LDOCE⁶, s.v. live¹, v.6.)
 ii. lead: if you lead a particular kind of life, that is what your life is like.
 (LDOCE⁶, s.v. lead¹, v.10.)

しかし、(3) に示すように、形容詞 beautiful は、LIVE には生起できるが、LEAD に生起できる例は見つけられない。

- (3) We want to *live a beautiful life* ... (COHA, 1941, FIC)

LIVE、LEAD が類似した表現でありながら、なぜ各動詞句に生起する形容詞の分布に違いが見られるのであろうか。本稿では、The Corpus of Historical American English (COHA) に見られる LIVE、LEAD に生起する形容詞の分布の意味的推移と、各動詞句の形成過程を考察することで、この問いに対する説明を試みる。

2. 先行研究における LIVE、LEAD について

LIVE に関する先行研究において、Höche (2009) は、live a happy life の例を挙げ、同族目的語と様態の副詞との意味的振る舞いの違いを指摘する。live a happy life は、「一定の期間、幸せな生活を過ごす」と解釈されるのに対し、live happily は、「幸せに生活する」と解釈される。また、小西 (2001: p. 939) は、形容詞を伴わない動詞句 live a life を挙げ、受動化の可能性を指摘する³。

LEAD に関して、Wood (1964) は、二重目的語構文に lead が生起し、直接目的語として a life を取る場合、修飾する形容詞は「不快もしくは望まない生活」を表す内容に限定されることを指摘する (He led his wife a miserable life. (Wood, 1964: p. 161))。さらに、LIVE と LEAD の意味的特徴に関して、Wood (1964)

と小西(1980)によると, LIVE は単に日々の生活を過ごす状況を表すのに対し, LEAD は意識的かつ積極的に生活を営む状況を表す点に違いが見られる。

いずれの研究も, LIVE と LEAD の形成過程が詳細に検討されておらず, 両動詞句の意味的特徴が十分に考察されているとは言えない状況にある。

3. COHA に見られる LIVE と LEAD について

3.1 LIVE, LEAD の用例の調査方法について

本研究は, いわゆる探索型調査の立場で進めていく。LIVE, LEAD の十分な量の用例を調査し検証するため, 4億語が収録される COHA を使用する。はじめに, (4) に示す検索式を用いてレマ検索を行う。その検索結果から得られる不定冠詞 a, an と, 名詞 life との間に形容詞 1 語を含む, 100 万語あたり 0.01 以上, 使用頻度 3 以上の LIVE と LEAD の用例を考察の対象とする⁴。

(4) [live][a]* life [lead][a]* life

その後, 各動詞句に生起する形容詞の初出年を調査し, LIVE, LEAD に生起する形容詞の分布の意味的推移を検証する。

当該表現の初出年の特定をより精緻化するため, COHA に加え, 英語の歴史に基づいて編纂されている *The Oxford English Dictionary Online (OED Online)* と, COHA で調査する LIVE, LEAD が, 小説に多く見られる動詞句であり, アメリカ英語であることから, アメリカ英語でデータ・サイズが大きい Google Books: American English を用いる。OED Online と Google Books: American English を使用する理由は 2 つある。第 1 に, COHA には 1810 年から 2009 年までのデータが収録されているので, 1810 年以前の LIVE と LEAD に生起する形容詞の初出年を確認するためには, これらを用いて補完しなければならないからである。第 2 に, COHA において, 一方の動詞句のみに生起する形容詞であっても, 他のコーパスでは他方の動詞句に生起する可能性が想定されるためである。

本研究において, LIVE, LEAD の初出年の調査に基づき, 形容詞の意味的推移を考察することで, 両動詞句が, どのような通時的形成過程を経て, 現在ほぼ同義の動詞句であるかを解明できるという利点が挙げられる。ただし, 今回, 考察の対象が, COHA に収録された用例に限定されるので, 当該動詞句の形

成過程の解明が部分的であるという点において、限界が見られる。

3.2 LIVE, LEAD の使用頻度について

先述の検索式を用いて COHA を調査した結果、LIVE と LEAD のタイプ数と、使用頻度は、表 1 に示す結果が得られた。

表 1 COHA における LIVE, LEAD のタイプ数と使用頻度

	タイプ数	使用頻度
LIVE	31	256
LEAD	39	343

また、LIVE に生起する 256 例のうち、各形容詞の使用頻度と、当該動詞句に占める割合は、表 2 としてまとめられる。

表 2 COHA における LIVE の形容詞の使用頻度と当該動詞句に占める割合

	形容詞	使用頻度	割合(%)
1	good	30	11.7
2	normal	28	10.9
3	new	16	6.3
4	double	14	5.5
5	full	14	5.5
6	better	13	5.1
7	quiet	13	5.1
8	lonely	12	4.7
9	simple	11	4.3
10	healthy	9	3.5
11	perfect	9	3.5

	形容詞	使用頻度	割合(%)
12	hard	8	3.1
13	solitary	8	3.1
14	real	7	2.7
15	wild	6	2.3
16	happy	6	2.3
17	single	5	2.0
18	secluded	5	2.0
19	different	4	1.6
20	useful	4	1.6
21	wandering	4	1.6
22	complicated	3	1.2

	形容詞	使用頻度	割合(%)
23	miserable	3	1.2
24	dangerous	3	1.2
25	bad	3	1.2
26	beautiful	3	1.2
27	comfortable	3	1.2
28	peaceful	3	1.2
29	pure	3	1.2
30	free	3	1.2
31	common	3	1.2

LIVE に生起する上位 3 位まで見ると、good, normal, new が生起し易いことが明らかとなる。さらに、LEAD に生起する 343 例は、各形容詞の使用頻度と、当該動詞句に占める割合は、表 3 にまとめられる。

表3 COHAにおける LEAD の形容詞の使用頻度と当該動詞句に占める割合

	形容詞	使用頻度	割合(%)
1	double	43	12.5
2	normal	33	9.6
3	different	31	9.0
4	good	20	5.8
5	better	19	5.5
6	quiet	19	5.5
7	new	17	5.0
8	happy	12	3.5
9	lonely	12	3.5
10	sheltered	12	3.5
11	solitary	8	2.3
12	roving	8	2.3
13	wandering	8	2.3

	形容詞	使用頻度	割合(%)
14	pleasant	7	2.0
15	dual	5	1.5
16	comfortable	5	1.5
17	single	5	1.5
18	hard	4	1.2
19	miserable	4	1.2
20	precarious	4	1.2
21	wild	4	1.2
22	rough	4	1.2
23	merry	4	1.2
24	full	4	1.2
25	busy	4	1.2
26	perfect	4	1.2

	形容詞	使用頻度	割合(%)
27	simple	4	1.2
28	private	4	1.2
29	vagabond	4	1.2
30	secret	4	1.2
31	bad	3	0.9
32	vile	3	0.9
33	cat-and-dog	3	0.9
34	useful	3	0.9
35	pure	3	0.9
36	regular	3	0.9
37	sedentary	3	0.9
38	tranquil	3	0.9
39	nomadic	3	0.9

LEAD に生起する上位 10 位までの形容詞のうち、6 つの形容詞が、LIVE の分布と重なることが分かる (double, normal, good, better, quiet, new)。また、表 4 は、LIVE, LEAD いずれにも生起する形容詞の使用頻度を示している。

表4 COHAにおける LIVE と LEAD いずれにも生起する形容詞の使用頻度

	形容詞	LIVE	LEAD
1	good	30	20
2	normal	28	33
3	new	16	17
4	double	14	43
5	full	14	4
6	better	13	19
7	quiet	13	19
8	lonely	12	12
9	simple	11	4
10	perfect	9	4
11	hard	8	4

	形容詞	LIVE	LEAD
12	solitary	8	8
13	wild	6	4
14	happy	6	12
15	single	5	5
16	different	4	31
17	useful	4	3
18	wandering	4	8
19	miserable	3	4
20	bad	3	3
21	comfortable	3	5
22	pure	3	3

2つの動詞句いずれにも生起する形容詞のタイプ数は22あり、LIVEのタイプ数の71.0%を、LEADのタイプ数の56.4%を占める。この重なりの高さは、両動詞句に生起する形容詞の分布が、互いに類似していることを強く示唆している。

3.3 LIVE, LEAD に生起する形容詞の分布の推移について

3.2節の調査によって得られた各動詞句に生起する、全ての形容詞を調査対象とし、当該の形容詞の初出年を調査し、各動詞句に生起する、形容詞の意味的分布の推移を考察する。各動詞句に生起する形容詞を、初出年の早い順に並べると、各動詞句に類似した概念的特徴を持つ形容詞の分布が見られる。

本稿では、a life を修飾する形容詞は、Langacker (1987) の言う、名詞によって表される実体（ここでは a life）を関係づけ、状態性を表すことで、その実体の特徴をプロファイルする機能を担うと考える。また、Paradis (2001) による、形容詞の語彙的意味には、動詞と同様、境界性 (boundedness) が内在していると考え、LIVE, LEAD の意味的特徴を解明する上で重要な役割を担うと考える。さらに、Dixon (1982) による、語レベルの形容詞の意味タイプの分類を参考にする。最終的に、調査対象全ての形容詞が、いずれかのカテゴリーに分類されるよう、(5) に挙げる6つのカテゴリーを設定する⁵。

(5) DIFFERENCE, ONE, WANDER, MANNER, GOOD, BAD

はじめに、初出年が早い形容詞を含むカテゴリーの順に従い6つのカテゴリーを紹介する。LIVE と LEAD とともに最も古くに初出が確認できる形容詞は new であり、1584年に初出する。この形容詞を含むカテゴリーを DIFFERENCE とし、日常生活とは異なる生活を表す4つの形容詞が分類される⁶。

表5 DIFFERENCE に分類される、LIVE, LEAD に生起する形容詞の初出年

	形容詞	LIVE	LEAD		形容詞	LIVE	LEAD
1	new	<u>1584(G)</u>	<u>1584(G)</u>	3	double	<u>1851(C)</u>	1854(G)
2	different	1829(C)	<u>1814(G)</u>	4	dual	<u>1873(G)</u>	1875(G)

このカテゴリーに分類される形容詞は、LIVE, LEAD いずれの動詞句にもほぼ同時期に初出する。new 以外にも、1800年代に入ると different, double, dual が、

いずれの動詞句にもほぼ同時期に初出する。

DIFFERENCE と並びほぼ同時期に、初出が確認できる形容詞が属するカテゴリーとして、ONE が挙げられる。このカテゴリーには、3つの形容詞 (single, solitary, lonely) が分類され、いずれも1人で生活する様子を表す。

表6 ONE に分類される、LIVE, LEAD に生起する形容詞の初出年

	形容詞	LIVE	LEAD
1	single	<u>1584(G)</u>	1608(G)
2	solitary	1810(G)	<u>1697(O)</u>
3	lonely	1851(G)	<u>1849(G)</u>

single は、new と同年(1584年)にLIVEに初出後、LEADに初出する(1608年)。また、solitary は、1697年にLEADに初出後、1810年にLIVEに生起する。さらに、lonely は、LIVE と LEAD いずれにも1850年前後に初出する。

次に、LIVE, LEAD への初出に時間的先行関係が顕著に見られる、4つのカテゴリーを紹介する。WANDER がこれに該当し、世俗を離れての生活状況を表す8つの形容詞がこのカテゴリーに分類される。

表7 WANDER に分類される、LIVE, LEAD に生起する形容詞の初出年

	形容詞	LIVE	LEAD
1	private	1755(G)	<u>1636(O)</u>
2	wandering	1808(G)	<u>1785(G)</u>
3	roving	1854(G)	<u>1801(G)</u>
4	vagabond	1852(G)	<u>1821(G)</u>

	形容詞	LIVE	LEAD
5	nomadic	<u>1830(G)</u>	1834(G)
6	secluded	<u>1832(G)</u>	1833(G)
7	secret	<u>1865(G)</u>	1913(G)
8	sheltered	<u>1882(G)</u>	1901(G)

ここで特筆すべき点は、1820年代頃まではLEADに初出後、LIVEに初出する形容詞 (private, wandering, roving, vagabond) と、1830年以降、LIVEに初出後、LEADに初出する形容詞 (nomadic, secluded, secret, sheltered) が見られることである。

WANDER に次いで、初出の早い形容詞が属するカテゴリーは、MANNER であり、生活の様子や様態を表す15の形容詞がこのカテゴリーに分類される。

表8 MANNER に分類される, LIVE, LEAD に生起する形容詞の初出年

	形容詞	LIVE	LEAD
1	regular	1803(G)	<u>1777(O)</u>
2	sedentary	1851(G)	<u>1802(G)</u>
3	perfect	1845(G)	<u>1811(G)</u>
4	full	1864(G)	<u>1811(G)</u>
5	peaceful	1833(G)	<u>1812(G)</u>
6	quiet	<u>1811(G)</u>	1821(G)
7	tranquil	<u>1827(G)</u>	1833(G)
8	busy	1871(G)	<u>1835(G)</u>

	形容詞	LIVE	LEAD
9	pure	<u>1835(C)</u>	1845(G)
10	free	<u>1841(G)</u>	1851(G)
11	common	<u>1844(C, G)</u>	1865(G)
12	simple	<u>1851(G)</u>	<u>1851(G)</u>
13	healthy	<u>1861(G)</u>	1871(G)
14	real	<u>1863(C)</u>	1895(G)
15	normal	<u>1871(G)</u>	1894(G)

18世紀後半から19世紀前半にかけて、LEADに初出後、LIVEに初出する形容詞が見られ、生活の全容を表す形容詞がそれに該当する (regular, sedentary, perfect, full)。一方、LIVEに初出後、LEADに初出する形容詞があり、1810年以降、生活を平穩に過ごす状況を表す形容詞 (quiet, tranquil, pure) が、1840年以降、通常的生活状態を表す形容詞 (common, simple, healthy, real, normal) が、それぞれ初出する。

次に、MANNER とほぼ同時期に初出が見られるカテゴリーとして、価値判断を表す GOOD が挙げられる。このカテゴリーには8つの形容詞が属し、話者や主語の主観的判断に基づき、生活の豊かさを表している。

表9 GOOD に分類される, LIVE, LEAD に生起する形容詞の初出年

	形容詞	LIVE	LEAD
1	good	1832(G)	<u>1792(G)</u>
2	better	1821(G)	<u>1801(G)</u>
3	happy	1833(G)	<u>1804(G)</u>
4	merry	<u>1802(G)</u>	1834(G)

	形容詞	LIVE	LEAD
5	pleasant	<u>1810(G)</u>	1833(G)
6	comfortable	<u>1816(G)</u>	1831(G)
7	useful	1847(C)	<u>1835(G)</u>
8	beautiful	<u>1863(G)</u>	—

LEADに初出後、LIVEに初出する形容詞 (good, better, happy, useful) と、LIVEに初出後、LEADに初出する形容詞 (merry, pleasant, comfortable, beautiful) が見られる。また、初出が1830年代に集中的に見られる形容詞があり、LIVEではgood (1832年) が、LEADではmerry (1834年) とuseful (1835年) が該当する。

最も遅くに初出が確認されるカテゴリーは、価値判断を表す形容詞のうち、生活が芳しくない状況を表す BAD であり、10 の形容詞が分類される。

表10 BAD に分類される、LIVE, LEAD に生起する形容詞の初出年

	形容詞	LIVE	LEAD
1	bad	1833(G)	<u>1811(G)</u>
2	miserable	1833(G)	<u>1822(G)</u>
3	precarious	1844(G)	<u>1822(G)</u>
4	wild	<u>1831(G)</u>	1835(G)
5	hard	<u>1851(G)</u>	<u>1851(G)</u>

	形容詞	LIVE	LEAD
6	rough	<u>1853(G)</u>	1854(G)
7	vile	<u>1854(G)</u>	<u>1854(G)</u>
8	cat-and-dog	—	<u>1874(C)</u>
9	dangerous	<u>1926(G)</u>	<u>1926(G)</u>
10	complicated	<u>1927(G)</u>	—

LEAD が LIVE に先行して初出する形容詞 (bad, miserable, precarious) が見られ、その後、1830 年以降、LIVE に初出後、LEAD に初出する形容詞が見られる (wild)。また、2つの動詞句にほぼ同時期に初出する形容詞 (hard, rough, vile, dangerous) や、LEAD にのみ生起する形容詞 (cat-and-dog)、LIVE にのみ生起する形容詞 (complicated) が見られる。

この初出年に基づく調査結果から、以下の3点が明らかとなる。第1に、LIVE に初出後、LEAD に生起する形容詞と、LEAD に初出後、LIVE に生起する形容詞が体系的に存在することを確認できる。この形容詞の分布の広がりから、LIVE, LEAD は生起する形容詞の分布に相互に影響を与えながら、各動詞句が形成され、生産性が高められていることが明らかとなる。

第2に、(6) に示すように、LIVE, LEAD に生起する形容詞の分布は、生活を客観的に表す形容詞から、主観的に表す形容詞に至るまで、3段階に分かれて意味的推移が見られることが明らかとなる。

- (6) i. 第1段階：他の生活との対比、他者から離れた生活状況を端的に表す。
 ii. 第2段階：世俗から離れた人生、生活の過程を表す。
 iii. 第3段階：話者、主語の価値判断に基づく生活状況を表す。

形容詞の初出が最も早い第1段階では、DIFFERENCE と ONE にそれぞれ分類される形容詞が、各動詞句に生起し、対比される生活状況が明示されることによって、生活状況が客観的に表される。第2段階では、MANNER に分類される形容詞が生起することで、対比される生活が明示されることなく、世俗から

離れた人生や、生活の過程が表される。その後、第3段階において、GOODとBADに分類される形容詞によって、話者や主語の価値判断に基づく、主観的な生活状況が表される。Traugott (1995) は、文法化の過程において、当初、客観的な状況を表す語が生起していたものが、主観的な状況を表す語の生起を許容できるようになる、主観化 (subjectification) が見られることを指摘する。このLIVE, LEADに生起する形容詞の意味的推移には、文法化は見られないが、客観的な状況を表す形容詞から、主観的な状況を表す形容詞へと分布が推移し拡大する点において、この「主観化」が反映されていると言える。

第3に、COHAから得られた形容詞の初出年と使用頻度との間に相関性が見られるカテゴリーと、ほとんど見られないカテゴリーがあることが明らかとなる。DIFFERENCEとONEには、この相関性が見られ、当該カテゴリーに分類される形容詞は、2つの動詞句にほぼ同時期に生起し、いずれも頻度が高い。一方、WANDERと、MANNER, GOOD, BADの4カテゴリーに分類される形容詞には、この相関性がほとんど見られない。初出年の時間的先行関係に関わらず、時間の経過とともに、LIVEに生起し易い形容詞のカテゴリー (GOOD) と、LEADに生起し易い形容詞のカテゴリー (WANDERとBAD) が存在する。また、MANNERに分類される形容詞は、LIVEには生活全般を表す形容詞 (normal, full) や、平穏な生活状況を表す形容詞 (quiet, healthy, peaceful, common) が生起し易い。一方、LEADには、具体的な生活の動きの様子を表す形容詞 (busy, sedentary) が生起し易い。

なぜ、2つの動詞句に生起する形容詞の分布に、このような違いが見られるのであろうか。これは、LIVE, LEADの形成過程の違いに起因すると考えられる。4節では当該動詞句の形成過程を考察し、5節において、各動詞句に生起する形容詞の意味的分布の違いに対する説明を試みる。

4. LIVE, LEADの形成過程について

本稿では、LIVE, LEADは、いずれの場合においても2つの動詞の意味が融合 (amalgamate) されることで形成される動詞句であり、この融合の違いが、各動詞句に生起する形容詞の分布の違いに反映されると主張する。

LIVEに生起する動詞 live は、本来、自動詞であり、名詞句 a/an Adj life が目的語位置に生起することで他動詞のように振る舞う。この文法的振る舞いを考える上で、Goldberg (1995) による One's Way 構文の形成過程に関する考察

が有効である。

(7) He made his way into the room. (Goldberg, 1995: p. 207)

- i. He made a path.
- ii. He moved into the room.

One's Way 構文は、2つの構文、すなわち、他動詞 make が生起する経路作成の構文((7i))と、自動詞 move が生起して前置詞句によって移動を表す構文((7ii))が融合されることで形成される。最終的に、(7)は、「彼」が道を切り開いて進み、部屋へたどり着くと解釈される。この融合の結果、One's Way 構文には他動詞 make のみならず、wend, crack などの自動詞も生起できる。

本稿では、この Goldberg (1995) による融合の知見を援用し、LIVE は、自動詞構文 live 'live in a particular way' と、他動詞構文 pass 'pass time or pass your life in a particular way' が融合されることで形成されることを提案する。

(8) He lived a happy life.

- i. He passed time in a happy way.
- ii. He lived in a happy way.

動詞 pass の目的語位置に生起する、過ごす時間を表す名詞句 time が a life として具現化される。また、動詞 pass, 動詞 live の語彙的意味に指定される様態 ('in a happy way') は、形容詞 happy によって具現化され、a life を修飾する。

その結果、LIVE は、「(通常の生活と比較、対比されることで) ある特定の状態で生活を過ごす」という意味を表す。LIVE が、特定の状態で時間を過ごすとして解釈されることは、Höche (2009) による「同族目的語は、動詞によって表される動作が一定期間に及ぶ状況を記号化する」という指摘からも支持される。

次に、LEAD の形成過程について考察する。本稿では、LEAD は、動詞 lead に指定される、2つの語彙的意味の融合により形成されると提案する。動詞 lead は、lead₁ から lead₄ へ意味拡張が見られる (lead の各定義は、LDOCE⁶ による)。

(9) lead₁: go in front → lead₂: be in charge → lead₃: influence someone to make them do something that is wrong → lead₄: be more successful than other people etc. in a particular activity

lead₁ は、「先頭を切って前に進む」という意味を表す。その先頭を切る対象が抽象的な実体に変化することで、動詞 lead₂ 「ある事柄に対して、責任がある、管理する」の意味を表す。また、lead₃ は、二重目的語構文を用いて「誰かに対して悪い影響を与えるよう働きかける」状況を表す。その際、主語には「使役主」(causer) の意味役割を持つ項が、直接目的語には悪い状況を表す比喩的な「経路」(path) の意味役割を持つ項が、それぞれ生起する。また、間接目的語には、その影響を受ける「主題」の意味役割を持つ項が生起する。さらに、lead₄ に意味拡張が進むと、他の状態との比較、対比が含意され、ある特定の分野で成功を収める状態を表す。

本稿では、LEAD は、lead₃ の意味の一部と lead₄ の意味が融合することで形成されると提案する。具体的には lead₃ における「使役主」が捨象され、「主題」が結果状態に至るまでの過程を表す部分と、lead₄ に見られる、他の状態との比較、対比によって生じる、目立つ状況を表す意味が融合されることで形成されると考える。最終的に、LEAD は「ある特定の状態、状況との比較、対比により、形容詞によって表される状態で生活を過ごす」という意味を表す。

5. LIVE, LEAD に生起する形容詞の意味的振る舞い

4 節で見た、動詞句 LIVE と LEAD の形成過程の違いに基づき、LIVE, LEAD にそれぞれ生起し易い形容詞のカテゴリーが見られる理由を説明する。

5.1 LIVE に生起する形容詞の意味的振る舞い

LIVE には、GOOD と、MANNER の中でも生活全般を表す形容詞 (normal, full) や、平穏な生活状況を表す形容詞 (quiet, healthy, peaceful, common) が生起し易いという意味的特徴が見られた。LIVE は、「(通常の生活と対比、比較することで) ある特定の状態で生活を過ごす」という意味を表す。また、談話的特徴として、生活状況や生活の様子が包括的に提示された上で、後続する文や句によって、当該の生活が詳述される。

この状況下で、LIVE に生起する形容詞は、通常の生活と対比されることで、包括的に提示される生活を具現化する。この意味的振る舞いが、LIVE の状態性の高い意味（「時間を過ごす」）との間で整合性が図られ、その結果、GOOD や MANNER に属する一部の形容詞が、LIVE に生起し易いと説明される。

LIVE に見られるこの意味的特徴に基づき、意味的推移の第 1 段階に位置づ

けられ、DIFFERENCE に分類される、形容詞 new の具体例を見てみよう。

- (10) She wants to *live a new life*, is working hard, and is trying to break away from smoking. (COHA, 1909, FIC)

(10) における a new life は、通常の生活との対比により、異なる生活状況を包括的に表し、「彼女」が新たな生活を送ることを望んでいると解釈される。その「新たな生活」が、後続する「一生懸命になって働く」事象と、「たばこを断とうとする」事象によって、それぞれ詳述される。

次に、意味的推移の第2段階に位置づけられ、MANNER に分類される形容詞 quiet が LIVE に生起する例を説明する。具体例として (11) を見る。

- (11) They are gloomy and melancholic animals; they *live a quiet life*, climbing trees, and eating fruit and insects. (COHA, 1897, NF)

quiet によって、「彼ら」が過ごす平穏な生活が包括的に表される。その「平穏な生活」が、後続する動詞句により、木登りと、果物や昆虫を食べることで営まれていると詳述される。

また、意味的推移の第3段階に位置し、話者や主語名詞による、生活に対する価値判断を表す GOOD についても同様に説明される。(12) の a good life を例に考えてみよう。

- (12) ... Dazzle *lived a good life* in the woods. He ate plenty of fresh fruit and vegetables, learned to take one day at a time ... (COHA, 1999, FIC)

(12) では、Dazzle が森の中で豊かな生活をしている様子が、a good life によって包括的に描写されている。その上で、後続する2つの動詞句によって、豊富な果物を食べて、その果物を1日で同時に取れるようになったと詳述される。

5.2 LEAD に生起する形容詞の意味的振る舞い

LEAD には、WANDER, BAD にそれぞれ分類される形容詞や、MANNER の一部の形容詞 (busy, sedentary) が生起し易いことを指摘した。LEAD は、「ある特定の状態、状況との対比、比較により、形容詞によって表される生活を過

ごす」という意味を表し、「不快もしくは望まない生活」を過ごす状況を表す傾向が強い。さらに、談話の特徴として、対比される事象が、LEADによって表される事象に先行して提示され、因果関係もしくは対比関係が構築される。この点で、LIVE に比べ、LEAD は、より動的に解釈される。

また、LEAD に生起する形容詞は、先行する他の事象との対比によって、a life によって表される生活時間の過程を具現化する。形容詞のこの意味的振る舞いと、LEAD の意味との間で整合性が図られることにより、WANDER や BAD, MANNER の一部に属する形容詞が生起し易いと説明される。

LIVE と同様、LEAD にも、(13) のように、意味的推移の第1段階に位置づけられる、DIFFERENCE に分類される形容詞 *new* が生起できる。

- (13) I will go home and humble myself, and reflect upon my past follies, and try to repent, and tomorrow I will *lead a new life*. (COHA, 1845, FIC)

ただし、LIVE とは異なり、(13) は、先行する事象と因果関係が構築されることによって *lead a new life* が表されている。家に帰り、謙虚になって、過去の愚行を熟考し、後悔するという一連の事象が列挙される。その上で、*lead a new life* によって、これまでの生活を変えることで、新たな生活を送る状況が表される。

次に、意味的推移の第2段階に位置づけられ、WANDER に分類される *wandering* を見る。(14) を例に考えてみよう。

- (14) The inland savages, on the other hand, *led a wandering life*, [...] only coming down occasionally to rob the plantations of the coast tribes ... (COHA, 1863, NF)

この文の先行文脈では、ポルトガルからの移民を好意的に受け入れた、性格の穏やかな人々の生活の様子が表されている。この生活状況と対比されることで、*inland savage* が放浪生活をしている様子が表される。また、MANNER についても、WANDER と同様、他の生活状況と対比されることで、過ごす生活の様子が具現化される。(15) の形容詞 *sedentary* を例に考えてみる。

- (15) Small, heavy-set pilots are more resistant to blackout than tall, slender men, and those *leading a sedentary life* have more resistance than men in athletic training. (COHA, 1941, MAG)

運動して鍛えているパイロットとの対比により、運動することなく、じっと生活している人の方が、一時的に意識を失うことに対して耐性がある状況が描写される。

最後に、意味的推移の第3段階に位置づけられる BAD の具体例を見る。(16) の bad は、他の状況との対比によって、「芳しくない生活」を描写する。

- (16) A sick lady came there and the Sisters said she used to be beautiful [...] she was going to die alone and unloved because she'd *led a bad life*. (COHA, 1949, FIC)

「彼女」が、かつて舞台の花形で活躍していた状況との対比によって、晩年、不遇な人生を送ってきた様子が描写される。さらに、不遇な人生の結果、愛されることなく、1人で亡くなりつつある状況が描写されている。

6. おわりに

英語の動詞句 LIVE, LEAD の意味的特徴について、当該動詞句に生起する形容詞の初出年を調査し、当該の形容詞のカテゴリーの分布の推移と、各動詞句の形成過程の違いに基づき考察した。その結果、LIVE, LEAD は、各動詞句に生起する形容詞の分布に関して、互いに影響を与えながら拡大することにより形成されていることを明らかにした。また、各動詞句に生起する形容詞のカテゴリーには、生活状態を、客観的に表す形容詞から、主観的に表す形容詞に至るまで、3段階に分かれて推移、拡大し、「主観化」が見られることを明らかにした。さらに、各動詞句に生起する形容詞の初出年の時間的先行関係にかかわらず、LIVE に生起し易い形容詞と、LEAD に生起し易い形容詞が存在することを指摘し、これは、動詞句の LIVE, LEAD の形成過程の違いに起因していることを明らかにした。とりわけ、LIVE は、通常的生活、これまでの生活との対比の中で、形容詞によって生活が包括的に特徴づけられ、後続する句や文によって、その具体的な生活が詳述される意味的特徴を有することを示した。一方、LEAD は、他の事象との対比により、因果関係ないし対比関係が構築されることで、形容詞によって表される生活を経験する状況を表すという意味的特徴を有することを示した。

注

* 本稿の内容の一部は、2017年8月28日、東北大学大学院情報科学研究科「言語変化・変異研究ユニット」主催第4回ワークショップ「コーパス・多人数質問調査からわかる言語変化・変異と現代言語理論」において口頭発表した、「英語における同族目的語構文の形成過程とその推移について—live a/an Adj life と lead a/an Adj life を中心に一」に基づいている。また、匿名の査読者より、有益かつ的確な質問、助言を賜った。ここに謝意を表したい。本稿における誤り等に関する責任は、すべて筆者にある。なお、本研究の成果の一部は、JSPS 科研費（課題番号：16K02774）の助成を受けてなされている。

1. 前置詞 of を用いて a life を修飾するボタン (lead a lie of peace) も見られるが、本稿では、形容詞が名詞句 a life を限定修飾する事例に限定して議論する。
2. 以下、用例中の斜字体は筆者による。
3. 形容詞を伴うことなく、動詞句 smile a smile が容認されることが、Schibsbye (1979) と大室 (1991) によって指摘されている。
4. 接尾辞 -er を伴う、形容詞の比較級も検索結果も各形容詞の使用頻度にも含める。なお、better は、他の語に比べて頻度が高いため、1つの語彙項目として扱う。
5. 時間を表す形容詞 (long, whole) や、道徳性を表す形容詞 (blameless, charmed, religious など) も見られるが、今回は分析の対象外とし、今後の研究課題とする。
6. 用例中、カッコ内の数値は初出年を表す。また、初出年と併記される C (COHA), G (Google Books: American English), O (OED Online) は、いずれも用例の出典を表す。下線は、一方の表現が、他方よりも時間的に先行して初出することを示す。

参考文献

- Dixon, R. M. W. (1982) *Where Have All the Adjectives Gone?* Berlin: Mouton.
- Goldberg, A. E. (1995) *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure*. Chicago: Chicago University Press.
- Höche, S. (2009) *Cognate Object Constructions in English: A Cognitive-Linguistic Approach*. Tübingen: Gunter Narr Verlag.
- 小西友七 (1980) 『英語基本動詞辞典』研究社.
- 小西友七 (2001) 『英語基本名詞辞典』研究社.
- Langacker, R. W. (1987) *Foundations of Cognitive Grammar: Volume I: Theoretical Prerequisites*. Stanford: Stanford University Press.
- 大室剛志 (1991) 「同族‘目的語’構文の特異性 (3)」『英語教育』1991年1月号: 68-72.
- Paradis, C. (2001) “Adjectives and Boundedness.” *Cognitive Linguistics* 12, 1: 47-64.
- Schibsbye, K. (1979) *A Modern English Grammar Second Edition*. Oxford: Oxford University Press.
- Traugott, E. C. (1995) “Subjectification in Grammaticalization.” In Stein, D. and R. D. Janda (eds.), *Subjectivity and Subjectivization*. Oxford: Blackwell, pp. 624-647.

Wood, F. T. (1964) *English Verbal Idioms*. London: Macmillan.

辞書・コーパス

Longman Dictionary of Contemporary English Sixth Edition (LDOCE⁶) (2014) Harlow: Pearson Education.

The Oxford English Dictionary Online (OED Online): <http://www.oed.com/>

The Corpus of Historical American English (COHA): <https://www.english-corpora.org/coha/>

Google Books: American English: <https://googlebooks.byu.edu/>

(高知県立大学 E-mail: kanazawa@cc.u-kochi.ac.jp)

